

古川美術館分館
為三郎記念館
特別展

2026 8/21 [金]—9/20 [日]

10:00—17:00 (最終入館は16:30)

休館日 月曜日

為三郎記念館 (古川美術館分館)

陶
六
人

Calligraphy / Ito Keiji



川端健太郎



板橋廣美

Photo / Saiki Taku



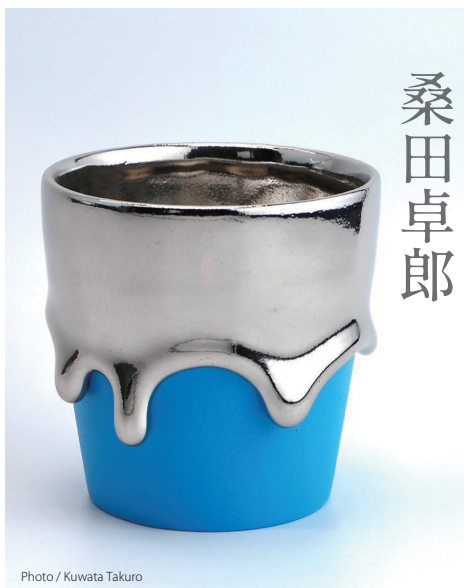
伊藤慶二

Photo / Kodera Katsuhiko



松永圭太

Photo / Yokoyama Masaki



桑田卓郎

Photo / Kuwata Takuro



新里明士

主催 / 公益財団法人 古川知足会 助成 / 公益財団法人 十六地域振興財団
後援 / 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 多治見市 多治見市教育委員会
土岐市 土岐市教育委員会 中日新聞社 スターキャット株式会社

美濃の土と向き合い、その可能性を切り拓いてきた六人の陶芸家―伊藤慶二、板橋廣美、川端健太郎、新里明士、桑田卓郎、松永圭太による特別展を開催します。陶芸・絵画・現代美術を横断しながら、祈りにも似た造形世界を築いてきた伊藤慶二を中心に、多治見市陶磁器意匠研究所を通じて学び、国内外で活躍をする作家が集います。

板橋廣美による、空気や水の移ろいを象った無釉白磁のオブジェは、静謐な佇まいの中にいのちの躍動を湛えています。川端健太郎は、手捻りによる有機的な磁土に溶けたガラスを流し込んだダイナミックな作品を展開します。新里明士は、光を透かす繊細な白磁によって陶の存在そのものを問い直し、桑田卓郎は、伝統とポップを大胆に交差させた鮮烈な表現で陶芸の常識を揺さぶります。松永圭太は、素材の変容や偶然性を取り込みながら、土の生命力を力強い造形として立ち上げます。いずれも現代アートと工芸という枠をこえ、革新的な世界を生み出した気鋭の作家たちです。

会場となる爲三郎記念館は、1934年築の数寄屋造りの日本家屋。90歳を迎えた伊藤慶二と同じ時代を歩んできた空間で、伝統と革新、静謐と躍動が響き合います。それぞれの感性で、陶の世界を更新し続ける六人の表現を通して、現代陶芸の新たな地平をご覧ください。

新里明士

1977年生まれ 千葉県出身
2001 多治見市陶磁器意匠研究所修了
2005 イタリア ファエンツァ国際陶芸展 新人賞
2008 パラミタ陶芸大賞展
大賞・国際陶磁器展美濃 審査員特別



Nishitani Akiro

2009 菊池ビエンナーレ 奨励賞
2011 文化庁新進芸術家海外研修制度研修員(ボストン・アメリカ)
2014 MOA岡田茂吉賞 新人賞
2017 U-50 国際北陸工芸アワード 奨励賞
2020 日本陶磁協会賞
現在、岐阜県土岐市にて制作

桑田卓郎

1981 広島県生まれ
2001 京都嵯峨芸術大学短期大学部
美術学科陶芸コース卒業
2002 陶芸家、財満進氏に師事
2006 益子陶芸展、濱田庄司賞受



Kuwata Takuro

2007 多治見市陶磁器意匠研究所修了
2009 テーブルウェア大賞、大賞・経済産業大臣賞受賞
2021 日本陶磁協会賞
現在、岐阜県多治見市にて制作

Photo / Nishitani Kumi

川端健太郎

1976 埼玉県生まれ
1998 東京デザイナー学院陶器科卒業
2000 多治見市陶磁器意匠研究所修了



Kawabata Kentaro

2020 個展「isyoken gallery vol.10: Kentaro Kawabata」(岐阜)
2021 個展「凸凹 Bumpy」Nonaka-Hill (ロサンゼルス)
2022 個展「YOURS TRULY」HIGH ART (パリ)
「ロマンティック・プログレス」岐阜県現代陶芸美術館
2023 個展「Butterfly Joint」Mendes Wood DM (サンパウロ)
2025「2024年度 日本陶磁協会賞・金賞受賞記念
川端健太郎・中里 隆・林 康夫展」
「Chimeras (合田佐和子・川端健太郎)」Nonaka-Hill (京都)
2026 個展「By Heart」Mai 36 (チューリッヒ)

伊藤慶二

1935 岐阜県土岐市生まれ
1958 武蔵野美術学校卒業
1959 岐阜県陶磁器試験場デザイン室勤務
(～65)、日根野作三氏に師事



Ito Keiji

1970 多治見市陶磁器意匠研究所の非常勤講師(～2000)
1978 第8回世界クラフト会議日本クラフトコンペ
京都にて美術出版社賞受賞
1979 第20回暮らしを創る'79クラフト展にて優秀賞受賞
1981 第39回ファエンツァ国際陶芸展にて賞上賞受賞
1993 石川県立九谷焼技術研修所の非常勤講師(～2014)
2006 岐阜県芸術文化顕彰
2007 第4回円空大賞にて円空賞受賞
2013 地域文化功労者表彰
2017 日本陶磁協会賞金賞受賞 国宝宝師「平成の至宝八十三選」奉納
2025 岐阜県現代陶芸美術館企画展「伊藤慶二 祈・これから」
現在、岐阜県土岐市にて制作

板橋廣美

国際陶芸アカデミー会員
1948 東京三鷹市生まれ
1977 多治見市陶磁器意匠研究所修了
1983 朝日陶芸展・83朝日陶芸賞(朝日新聞)
1984 中日国際陶芸展・84大賞(中日新聞)



Itabashi Hiromi

1989 国際陶磁器美濃・デザイン部門・銀賞(岐阜・多治見市)
1991 47ファエンツァ国際陶芸展 賞上げ賞(イタリア)
1997 出石磁器トリエンナーレ・97大賞(兵庫・出石町)
1999～ 金沢卯辰山工芸工房講師
1999～08 多摩美術大学講師
2007～14 金沢美術工芸大学教授
2009 金沢市芸展・世界芸都市宣言賞(石川・金沢市)

松永圭太

1986 岐阜県多治見市生まれ
2010 名城大学建築学科 卒業
2013 多治見市陶磁器意匠研究所 修了
2016 金沢卯辰山工芸工房 修了
現在、岐阜県土岐市にて制作



Matsunaga Keita

2019「Re-interpretation」Tainan Art Museum (台湾)
2022「やきものの現代考」愛知県陶磁美術館
「The Fourth Dimension—うつわの未来へ—」
益子陶芸美術館
「ホモ・ファアベルの断片—人ものづくりの未来—」
愛知県陶磁美術館
2024「心象工芸展」国立工芸館
2025「Unearthed」オレンジカウンティ美術館(アメリカ)
「特別企画 現代3作家による 茶室でみる焼き盛れる陶の現在」
根津美術館 庭園内茶室
「Improvisational Drift: New Directions in Ceramics」
UCCA Clay Museum (中国)

Photo / Nomura Tomoya



アーティストトーク ◎予約不要

日時 | 8月22日(土) 11:00～ 板橋廣美 ● 伊藤慶二先生との思い出を語ります
| 9月13日(日) 11:00～ 新里明士、松永圭太 ● ご自身の作品について語ります
場所 | 爲三郎記念館 参加費 | 無料(別途入館料必要)

学芸員によるギャラリートーク ◎予約不要

日時 | 9月1日(火)、9月16日(水) 11:00～ 場所 | 爲三郎記念館 参加費 | 無料(別途入館料必要)

特別茶会「知足庵×現代作家茶碗席」 ◎要予約

伊藤慶二の茶道具、「陶六人」の茶碗を使用する、極めて希少性の高い席です。

日時 | 9月4日(金)、5日(土) 各日 5席 ①10:30 ②11:15 ③13:00 ④13:45 ⑤14:30
場所 | 爲三郎記念館 庭園茶室「知足庵」
定員 | 各席 6名 参加費 | 4,000円(別途入館料必要) 創作和菓子+薄茶一服
申し込み | 古川美術館 052-763-1991

数寄屋 ☺ Café からのお知らせ

- 爲三郎記念館内併設の数寄屋 de Caféの営業日、営業時間は古川美術館に準じます。
- 数寄屋 de Caféご利用には、分館 爲三郎記念館の入館料が別途必要です。

分館 爲三郎記念館、数寄屋 de Café ご利用のお客様へ

国登録有形文化財である爲三郎記念館は、文化財保護のため、素足でのご利用はできません。靴下の着用にご協力ください。



入館券

- ① 古川美術館と爲三郎記念館の共通券
一般: 1,200円 / 高・大学生: 500円 / 中学生以下: 無料
- ② 美術館単館券 900円 ③ 記念館単館券 600円
- ①～③にかかわらず中学生以下は無料 ②、③は年齢区分なし
- 和装の方 半額(本人のみ)。
- 上記以外にも各種割引あり。
- * 各種割引は2館共通入館券にのみ適用。
- * 割引の併用はできません。

アクセス

地下鉄 東山線池下駅 1番出口より東へ徒歩3分
東山線寛王山駅 1番出口より西へ徒歩5分
市バス 金山より金山11系統 猪高車庫より池下11系統
大森車庫より幹砂田1系統 猪子石団地より茶屋12系統「池下」下車

ご予約・お問い合わせは
古川美術館までお電話ください
開館日 10時～17時

Tel 052-763-1991



〒464-0066 名古屋市千種区池下町2-50
<https://www.furukawa-museum.or.jp/>

公益財団法人 古川知足会

古川美術館
分館 爲三郎記念館
旧古川爲三郎邸

